



まちを彩るイルミネーション イルミネーション点灯式

12 月 12 日(日)、つなぎ文化センター敷地内がイルミネーションで彩られました。町商工会が中心となり、コロナ禍で気持ちが沈んでしまった人たちに少しでも笑顔になってもらおうと、昨年から始めました。同会の大川貴哉青年部長は「イルミネーションが明るく前向きになれる存在になるとうれしい」と話しました。1 月 23 日(日)まで点灯予定です。



↑ピンクや青、紫に輝く電飾がきらめいていました

農業の魅力、食の大切さを学ぶ 中学校大根収穫体験

12 月 13 日(月)、津奈木中学校 1 年生 37 人が地元特産の大根の「寒漬」づくりに取り組み、自分たちで育てた大根を収穫して干す作業を行いました。町が進める「つなぎ FARM」の取り組みの一つで、農業の素晴らしさや食の大切さを学んでもらおうと、JA 青壮年部と協力して行っています。

「寒漬」は、大根を干して塩やしょうゆに漬けた地元の特産品。中尾地区の畑で育ててきた約 2 ㍓分の大根を、生徒は農家に教わりながら折れないよう 1 本ずつ丁寧に引き抜き、ついたどろを手作業で洗い流しました。その後、校舎の軒先や柵などにつるしていきました。大根は約 1 週間風にさらしたあと、約 3 週間塩漬にし、再び天日干しにして水分を抜きます。みりんや酢、しょうゆなどを合わせた調味液に漬けると完成で、つなぎ百貨堂などで販売する予定です。大根を収穫した生徒は「収穫はなかなか体験できないので楽しかった。どろを洗い落とすとき、水が冷たく感じた」と話していました。

↓会場ではたくさんの笑顔が見られました



和気あいあいとプレー フレンドリーカップ・ビーチバレー大会

12 月 12 日(日)、ビーチバレーを通じて交流や親睦を目的に「第 5 回フレンドリーカップ・ビーチバレー大会」が B&G 体育館で開かれ、7 チーム(約 60 人)が参加しました。この大会は順位を決めないため和気あいあいとプレー。男女共に楽しみながら交流を深めました。閉会式で抽選会有り、くじ引きで 1 ～ 7 等の景品が全チームに贈られました。

↓力いっぱい大根を引き抜く中学生



↑冷たい水で丁寧にどろを洗い流します



↑たるの中に大根を敷き詰め、塩漬けしていきます

被災当時と復興を切り取り 美術館アーティストトーク

12 月 4 日(土)、つなぎ美術館で展覧会「ドキュメンツ 忘れえぬ記憶 生まれくる風景」が始まりました。同日に長野良市さん、豊永和明さん、長野梢人さんをゲストに迎えたアーティストトークが開かれました。熊本地震と令和 2 年 7 月豪雨の被災当時とその後の復興を写真と映像で展示。3 人は作品へのこだわりや当時のエピソードなどを語りました。



↑参加者に作品に対する思いを話す豊永和明さん

これからも地域住民のために 日本善行会表彰式

12 月 9 日(木)、ボランティア活動などで明るい社会環境づくりに貢献したとして、本町から 5 人が一般社団法人「日本善行会」から秋季善行表彰を受けられました。表彰者は以下のとおりです。(敬称略)
《公共生活》上村眞富(平国下)・野崎忠次(平国下)・野崎榮二(平国上)・濱田久米男(平国下)
《青少年指導》福田三継(福浦)



↑受賞者、役員、来賓で記念撮影



↓今からでも食生活を見直してほしいと話す武部さん



未来へつなぐ食と農とは 「安全・安心な食と農」確立セミナー

12 月 4 日(土)、つなぎ文化センターで「安全・安心な食と農」確立セミナーが開かれ、約 40 人が参加しました。講師は分子整合医学美容食育協会の武部佳子さん。武部さんは安全・安心な食品を選んで食べることの重要性を話し、「自分の身体は自分で守らないといけない。食べものにどんな成分が入っているのかよく確認してほしい」と呼びかけていました。

↓列車内で食べる弁当が格別です



おれんじ鉄道列車が教室に スクールトレイン事業

津奈木小学校 4 年生 30 人が肥薩おれんじ鉄道について学ぶスクールトレイン事業が 12 月 7 日(火)に開かれました。県や沿線市町などで構成する同鉄道沿線活性化協議会が小学生を対象に開いているもの。佐敷～出水駅の車内では運転手の話に熱心に聞き入り、乗車したまま車両を洗う「洗浄体験」では窓にかかる水しぶきに歓声を上げていました。